

ニューポート市訪問体験記（中学生編）

た一番の理由かもしれません。英語を話せるようになりたいという思いはより一層強くなりました。

「また行きたい」そう思える素晴らしい経験になりました。

◆長谷川 友香（下田東中）
私は英語が通じるか不安でしたが、ホームステイ先の人とはとても親切で、そのおかげで楽しく過ごせました。滞在時、まず驚いたのは食事のとき、いただきます、やごちそうさまという挨拶がなく、文化の違いを感じました。

そして一番思い出深いことは、ワークシヨップです。子どもから大人まで沢山の人が来てくれて嬉しかったです。小さい子は何回も来て凧の作り方を真剣に聞いてくれました。みんな、とてもかわいかったです。そしてみんな帰り際に笑顔でありがとうと言ってくれました。すごく嬉しかったです。あの笑顔は忘れられません。

ホームステイもとても楽しかったです。船に乗せてもらったり、シヨッピングに行ったり、とても充実することができました。ホームステイ先の人とも仲良くなれて良かった

です。最終日にはパーティーを開いてくれました。ニューポートの人達はみんなとても優しい人だと思いました。

慣れない言葉や文化に触れ、とてもよい経験になりました。周りの人達にはできない経験だったので、とても良い思い出になったと思います。

◆福嶋 孝太（下田中）
ホストファミリー達と初めて会うまでは、どの様な人なのか、など様々な気持ちで一杯でしたが、そんな気持ちも一瞬で消え去りました。

滞在3日目の凧作りは思っていたより人気で大忙しでしたが、完成した凧を見て笑顔になる子ども達を見て僕も嬉しくなりました。

4日目になり、ホストファミリーとの生活にも慣れてきました。初めは聞き取るのがとても大変に思いましたが、次第に慣れ、色々なゲームも覚え、ホストファミリーとの交流を深めました。

ニューポートで僕達は色々な体験をしました。海へ行ったり、アーチェリー、ロッククライミングなど様々なスポーツをしました。中でもアーチェリーのことはとても心に

残っています。的には全然当たりませんでした。とても良い思い出になりました。

帰国前、ホストファミリー達とのパーティーでは木に登ったり美味しい料理を食べたりゲームをしたりと一番心に残った1日でした。

最後に歌を歌ってお別れました。2週間という長そうでも短い期間でしたが、とてもいい経験になりました。

◆佐藤 真一（下田中教諭）
生徒は最初戸惑う様子もありましたが、心温まるおもてなしの中、安心して過ごすごとができました。

今年度は滞在期間も長く、アメリカの文化や歴史、習慣を肌で十分に感じ、理解を深めることができました。

最終日に生徒が別れを惜しむ姿を見て、本当に良い経験ができたと思えました。生徒から、「もっと英語が話せたらな」という声が聞かれ、今後の学習に向け、良い刺激になったものと期待しています。

新たな出会い、経験、そして友情を身へてくださった方々に感謝するとともに、今回の訪問団の一員として交流できたことを誇りに思います。

ニューポート市訪問体験記 （中学生編）

7月16日から30日までの間、市内4中学校の代表生徒がニューヨーク訪問、そして姉妹都市ニューポート市ではホームステイをし、下田市の中学生でなければ絶対にできない経験をしました。今月号では参加者の方からいただいた感想文の要約を紹介します。



ロッククライミングに挑戦



ペリー提督のお墓の前で



ニューポートの歴史についてレクチャー



子どもたちに凧作りを教えました

◆鈴木 楓（稲梓中）
自分のしたいことを英語で伝えなければならぬ、その不安が募るばかりの私に対して、ホストファミリーは、英語をゆっくり話してくれました。そのおかげで何を言いたいのかが解りました。相手に伝わらず、困る場面が何度もありました。そのときに必死に私の言葉を理解しようとしてくれたホストファミリーに感謝しています。

地元のキャンプや、祭りに行き、多くのことを経験しました。ラクロスやアーチェリーなどのスポーツをすることで、例え英語を話せなくても、笑いあうことができるのだと痛感しました。また、私達も、地元の人達に日本の文化を伝えることができました。

私は、2週間の間アメリカに行けたことを幸せに思います。また、ホストファミリーと少しずつ話せ、笑いあえたことは、この先英語を学ぶうえでの自信になりました。

今回の訪問で私は自分の英語の知識の無さを痛感しました。けれど、英語が喋れなくても笑いあうことができるのだとも学びました。この二つ

のことを覚え、英語を勉強したいです。この経験で英語にたいする意識が変わりました。

◆佐藤隆至（稲生沢中）
英語のテストとは違う、「英会話」という新たな問題。「まるで歯が立たない」それが滞在15日間の感想です。その状態のまま生活するのは辛いものでしたが不思議と帰りたいとは思いませんでした。

みんな積極的に話しかけてくれ、聞き取れないとゆつくり発音、それでも分からないと、紙とペンで絵を描いて説明してくれました。もちろん僕も、習った英語をフル活用、ジェスチャーも交え、ある意味、戦いました。

また、子どもと遊びを通じて仲良くなりました。簡単にいえばアルファベットを並べて、英単語を作るゲームで、もちろん絶対的に不利。思いつかないときの秘策は「Can you help me?」

周囲の家族、勝負相手まで大集合、みんなで最善手を考えました。ゲームが終われば完全に打ち解けていました。

この他にも僕らにとっても親切に接してくれました。それが「帰りたい」と思わなかつ